

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学健康リスクコミュニケーション学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年10月 福島県立医科大学健康リスクコミュニケーション学講座 村上道夫

【研究課題名】

故郷への帰還と心身の健康および幸福度の関連

【研究期間】

平成29年10月～令和7年3月

【研究の意義・目的】

2011年3月の東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所（以降、原発）事故に伴い、放射線被ばくのみならず、心身の健康の悪化や幸福感の低下がもたらされています。リスクを最小化するという観点に加えて、人々の幸福感を高めるような社会を再構築するという観点からの評価が求められています。避難指示の解除に伴い、故郷への帰還とともに、心身の健康や幸福感の向上が予想される中、それらを定量的に評価することが重要です。

これまでに、個人または社会の意思決定の支援として、発がんリスク、損失余命、Quality Adjusted Life Years (QALY) や Disability Adjusted Life Years (DALY) といったリスク分析の指標が用いられ、適用されてきました。原発事故に関しても、発がんリスクの評価や損失余命を用いた避難と被ばくのリスクトレードオフ解析などが行われています。しかし、これらの指標は依然としては本人に具現化した損傷のみを扱っており、日々の暮らしにおける主観的な幸福度の増加（例えば帰還）といった価値観を組み込んだ評価という点では欠けています。近年、経済学および心理学の分野において調査が進められている幸福度の指標を評価指標として取り入れることが有望です。

そこで、本研究では、第一原発事故に避難指示を受けた地域を対象に、アンケートを行い、故郷への帰還と心身への健康や幸福感との関連を明らかにします。幸福度との関連を詳細に評価するために、人生の目標やレジリエンス（復元力）を調査項目に含めた追跡のアンケートも行います。さらに、被ばくによるリスクと帰還に伴う幸福度の増加といったトレードオフを評価します。

本研究は、原発事故後の諸対策に関する意思決定において、人々の幸福感を高めるような社会の再構築という観点から有用な判断材料を提示できると期待できます。

【研究の対象となる方】

アンケート対象者は、第一原発事故に避難指示を受けた地域のうち、避難指示の解除と共に帰還が進んでいる9市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、葛尾村および飯舘村）の住民です。年齢は20歳以上80歳未満、およそ2000名を対象にアンケートを送付します。住民基本台帳より、無作為に対象者を抽出します。

さらに、先行のアンケートの回答者826人の内、アンケートの辞退や否定的な回答を記載した方などを除いた811名を対象に追跡調査を行います。

【研究の方法】

本研究は、アンケートの結果を用いてデータ解析を行い、結果の考察と議論を行います。

調査手法として郵送法を採用します。

調査で得られるデータは、回答年月日、年齢・性別・居住形態・自身や家族の転居状況・東日本大震災以降の転居回数と最後に転居した年月・居住地への帰還状況、身長・

体重・職業・婚姻状況・子供/孫の有無・学歴・家族内失業者の有無・世帯人数・世帯年収・喫煙習慣といった個人属性、幸福度に関する項目（生活や幸福への認識、昨日の気分、心理的幸福度）、主観的健康観、精神的ストレスに関する質問項目（健康過去30日間での気分；K6と日常生活への支障の頻度）、既往歴（これまでおよび東日本大震災後に病気にかかっていると医師に診断されたもの）、自由回答などです。また、今後、追跡調査を行うことを想定し、住民基本台帳より居住地（大字まで）、生年月日、性別の情報も得ます。この調査は2018年1月から2月まで実施し、826人の回答を得ました（回収率41.3%）。

追跡調査では、回答年月日、年齢・性別・居住形態・2018年1月以降の転居の有無・居住地への帰還状況といった個人属性、幸福度に関する項目（生活や幸福への認識、昨日の気分、心理的幸福度）、主観的健康観、精神的ストレスに関する質問項目（健康過去30日間での気分；K6と日常生活への支障の頻度）、人生の目標、レジリエンス、震災について伝えたいこと、アンケートへの自由回答などです。

このアンケートにより、故郷への帰還、精神的ストレスやその他の疾病、人生の目標、レジリエンスなどと幸福度にどのような関係があるかを明らかにします。この結果をもとに、幸福度を従来リスク学で行われてきた損失余命の指標に拡張・適用することで、一生涯に得られる幸福度（例えば、損失/獲得幸福余命）を算出します。具体的には、福島県内での公表された被ばくの結果に適用し、被ばくリスクとの比較を行います。

データの解析は福島県立医科大学が産業技術総合研究所、東京大学大学院と連携しながら実施します。データは福島県立医科大学のみが所有します。得られた解析結果をもとに、福島県立医科大学、産業技術総合研究所、東京大学大学院にて結果を考察し、議論します。

【研究組織】

研究責任者：

（所属）福島県立医科大学健康リスクコミュニケーション学講座（職）博士研究員

（氏名）村上道夫

学内分担研究者：健康リスクコミュニケーション学講座 講師 竹林由武

学内分担研究者：健康リスクコミュニケーション学講座 学部生（MD-PhD）和田水生

学内分担研究者：健康リスクコミュニケーション学講座 学部生（MD-PhD）米城陽

学内分担研究者：放射線健康管理学講座 教授 坪倉正治

学外分担研究者：産業技術総合研究所安全科学研究部門 主任研究員 小野恭子

学外分担研究者：東京大学大学院工学系研究科 特任教授 窪田亜矢

【他の機関等への試料等の提供について】

なし。

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

○研究内容に関する問い合わせの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座
担当 村上道夫

電話:024-527-1320 FAX: 024-547-1244
E-mail:michio@fmu.ac.jp

○試料・情報を当該研究に用いられることについて拒否する場合の連絡先
〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座
担当 村上道夫
電話:024-527-1320 FAX: 024-547-1244
E-mail:michio@fmu.ac.jp

